

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、製造業を中心に持ち直しの動きが続いている。

先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲56.7と、前期比で1.1ポイント増加し、5期連続で改善した。業種別では、製造業は4期連続で改善し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きD Iは▲25.2と、前回調査比で2.2ポイント減少し、2期連続で悪化した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は19.7%で、3期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和3年4～6月期、「当期」：令和3年7～9月期、「来期(先行き)」：令和3年10～12月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲56.7となり、5期連続で改善した。前期比で1.1ポイント増加し、前年同期比では16.3ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲50.9)は4期連続で改善し、非製造業(▲61.1)は2期ぶりに悪化した。

<景況感D Iの推移>

	当期 (R3.7-9)	前期 (R3.4-6)	前年同期 (R2.7-9)
全体	▲56.7	▲57.8	▲73.0
製造業	▲50.9	▲54.9	▲83.4
非製造業	▲61.1	▲60.0	▲64.8

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.4%（前回調査(R3.4-6月)比▲0.1）、「悪い方向に向かう」とみる企業は32.6%（前回調査比+2.0）だった。

先行きD Iは▲25.2（前回調査比▲2.2）と、2期連続で悪化した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R3.10-12)
全体	7.4%	32.6%	▲25.2
製造業	9.4%	28.4%	▲19.0
非製造業	5.9%	35.7%	▲29.8

2 売上げについて

売上げD Iは▲34.6（前期比▲3.0）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R3.7-9)	前 期 (R3.4-6)	前年同期 (R2.7-9)	来期見通し (R3.10-12)
全 体	▲34.6	▲31.6	▲46.3	▲20.7
製 造 業	▲27.6	▲23.2	▲51.4	▲12.7
非製造業	▲39.9	▲38.0	▲42.2	▲26.8

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲28.4（前期比▲2.6）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R3.7-9)	前 期 (R3.4-6)	前年同期 (R2.7-9)	来期見通し (R3.10-12)
全 体	▲28.4	▲25.8	▲34.9	▲23.7
製 造 業	▲23.3	▲21.2	▲41.3	▲18.9
非製造業	▲32.3	▲29.3	▲29.8	▲27.4

4 採算について

採算D Iは▲39.2（前期比▲3.1）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R3.7-9)	前 期 (R3.4-6)	前年同期 (R2.7-9)	来期見通し (R3.10-12)
全 体	▲39.2	▲36.1	▲49.1	▲29.7
製 造 業	▲33.8	▲29.5	▲53.4	▲22.8
非製造業	▲43.3	▲41.2	▲45.7	▲35.0

5 設備投資について

実施率は19.7%となり、3期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は5期ぶりに減少し、非製造業は3期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R3. 7-9)	前 期 (R3. 4-6)	前年同期 (R2. 7-9)	来期見通し (R3. 10-12)
全 体	19.7%	19.3%	19.4%	17.4%
製 造 業	22.6%	22.8%	21.2%	22.5%
非製造業	17.5%	16.6%	18.0%	13.6%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体関連、自動化設備等の需要が強く、好況である。
- （輸送用機械器具）・取引先の生産調整の影響で受注が不安定となっており、景況感は普通である。
- （銑鉄铸件）・工作機械用の铸件部品の受注が増え、景況感は好況である。
- （印刷業）・緊急事態宣言下で営業活動にも支障が出ており、受注が回復していない。
- （百貨店）・地方、郊外店は引き続き厳しい状況が続いている。
- （商店街）・緊急事態宣言の影響で飲食店は休業しているお店が多く、不況である。
- （情報サービス業）・前年同期に比べれば営業活動等が活発化している。
- （建設業）・緊急事態宣言の影響で8月は前年同期比で動きが鈍かった。

【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・前年は感染症の影響で3割減だったが、現在は影響を受ける以前の水準に戻っている。
- （電気機械器具）・半導体関連の受注が増加したことから、売上高は増加した。
- （金属製品）・半導体関連以外の受注が回復せず、売上高は減少した。
- （食料品製造）・原材料価格が上がり、採算性が悪くなった。
- （スーパー）・感染防止や人件費等の諸経費が増えたため、採算性は悪化した。
- （旅行業）・前年同期比では増加しているが、前々年比では3割程度にとどまっている。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体需要は継続しそうだが、在庫調整も予想されるため、どちらともいえない。
- （輸送用機械器具）・半導体不足による自動車の生産調整が出ており、どちらともいえない。
- （プラスチック製品）・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。
- （印刷業）・当面は厳しい状況が続くとみている。
- （百貨店）・長引くコロナ禍で消費動向の不透明感が続き、悪い方向に向かうとみている。
- （情報サービス業）・感染症の影響で先行きは不透明であり、どちらともいえない。
- （建設業）・コロナ禍の長期化により、今後廃業が増える可能性がある。